

このことは他の部門においても同様である。そのとき得られなかった資料が、後になって出てくることもよくあることである。誰が執筆しても完璧を期することは不可能である。執筆者はその時に最善をつくすしかない。その点、それぞれ執筆者各位は良心的に万全を期せられたことを申し上げて、読者各位へのご挨拶としたい。

昭和六〇年九月

小田町誌編さん顧問

愛媛県史編さん委員

伊藤 義 一

目次

第一編 自然

第一章 小田町の概観 三

- 一 地理的位置 三
- 二 交通的位置 五
- 三 気 候 六
- 四 面積・人口 七
- 五 町の産業 九
- 六 経済・福祉・文化 二

第二章 地 形 三

- 一 山 三
- 二 平 地 三
- 三 道 四
- 四 谷 川 四

第三章 地質および土壌 七

- 一 地 質 七
- 二 土 壌 三
 - (一)風化 (二)小田の土壌

第四章 気候と災害 三

- 一 町の気候と特色 三
 - (一)気温 (二)降水量 (三)降雪量 (四)日照時間
 - (五)小田町の天災 (六)小田町の地すべり地帯

第五章 生 物 壹

- 一 動 物 壹
 - (一)哺乳類 (二)鳥類 (三)両生爬虫類および魚類
 - (四)昆虫類
- 二 植 物 弍
 - (一)植物概観 (二)低地部の植物 (三)高地部の植
 - 物
- 三 自然保護 弍

第二編 歴史

第一章 小田町のあけぼの 一

- 一 出土品 一
- 二 古いお宮やお寺 一
- (一) 町内の神社、寺院の誕生 (二) 境内に茂る巨樹 (三) 神社、寺院にある古文書 (四) 神社、寺院に残る棟札 (五) お祭りと縁日
- 三 広奴田郷と太田山 一
- (一) 広奴田郷

第二章 太田山と大野氏 七

- 一 大除城主大野氏と広奴田郷 七
- (一) 鎌倉時代の小田・久万郷 (二) 大野氏の出自 (三) 南北朝時代の太野氏 (四) 大野氏の消長 (五) 応仁の乱と大野氏 (六) 大野氏と大除城 (七) 伊守利直 (八) 山城守直昌 (九) 笹が峠合戦 (十) 笹が峠合戦考 (十一) 大除城落城と大野氏の末路 (十二) 大野氏の幕下 (十三) 小田町内の城址について

- 二 その後の大野氏研究 三
- 三 郷村のおこり 三

第三章 藩政時代の小田郷 三

- 一 概 要 三
- (一) 戦国の太田山 (二) 戸田勝隆の時代 (三) 藤堂高虎の時代 (四) 脇坂安治・安元の治世 (五) 加藤大津藩の出現
- 二 大洲藩・新谷藩の藩政と小田郷 三
- (一) 藩の収入と諸税 (二) 藩臣人数と藩の役務組織 (三) 藩の財政 (四) 郷政組織 (五) 庄屋体制 (六) 藩財政の推移 (七) 農民問題・寛延内ノ子騒動 (八) 領政概要

第四章 小田郷の暮らし 一六

- 一 検地と村高 一六
- 二 検地帳 一六
- 三年 貢 一六
- (一) 掛り物・小物成
- 四 村の組織・庄屋体制 一六

五 小田郷の庄屋 一八

- (一) 上川村庄屋大野氏 (二) 中川村庄屋大野氏、露口氏 (三) 本川村庄屋大野氏、影浦氏 (四) 町村庄屋大野氏、大宮氏 (五) 日野川村庄屋日野林氏、大野氏、土居氏 (六) 大平村庄屋土居氏、宮田氏 (七) 寺村庄屋大野氏、栗田氏 (八) 南山村庄屋大野氏、栗田氏 (九) 立石村庄屋大野氏、安達氏、篠崎氏、二宮氏 (十) 吉野川村庄屋菅氏、二宮氏、兵頭氏、大野氏 (十一) 中田渡村庄屋菅氏、後久松と改姓 (十二) 上田渡村庄屋菅氏、露口氏 (十三) 白杵村庄屋兵頭氏、土居氏、大野氏

第六章 昭和期 三

- 一 昭和前期 三
- (一) 天皇即位・御大典 (二) 満州事変・上海事変 (三) 日華事変 (四) 太平洋戦争 (五) 統後の暮らし (六) 終戦
- 戦没者名簿
- 二 昭和後期 六
- (一) 終戦後の人々の暮らし (二) 新憲法発布と教育基本法 (三) 六・三制 (四) 経済復興と人口の流出 (五) 豊かな暮らしと米の減反 (六) 文化活動の隆盛と文化協会の結成

第三編 政治

第一章 行政区画の変遷 三

- 一 明治以前 三

第五章 明治大正期 三

- 一 大洲若宮騒動 三
- 二 白杵騒動 三

二 明治以後 三〇

- (一) 維新当初 (二) 郡区町村編制法の公布 (三) 市町村制の実施 (四) 町村合併促進法の公布と新生小田町の誕生 (五) 小田町建設計画の策定
- 三 役場の移り変わり 三三
- (一) 石山村役場 (二) 参川村役場 (三) 小田町村役場 (四) 旧渡村役場 (五) 小田町役場
- 四 幻の分村合併 三六

第二章 町政の動き 三三

- 一 維新当初 三三
- 二 区長・戸長・村長 三七
- 三 選挙 三九
- (一) 選挙制度の変遷 (二) 国会 (三) 県会 (四) 区会 (五) 町村会 (六) 明るく正しい選挙推進運動 (七) 小田町制施行後の選挙
- 四 財政 四〇
- (一) 財務制度の誕生 (二) 明治時代 (三) 昭和初期から町村合併まで (四) 町村合併以後 (五) 町財政再建

第三章 治安警察・消防 四〇

- 一 自治警察 四三
- 二 交通と警察 四七
- 三 消防組の誕生 四九
- (一) 旧小田町消防団沿革 (二) 参川村消防団沿革 (三) 旧渡村消防団沿革 (四) 小田町消防団沿革
- 四 戦時下警報発令時における
消防団の出動 五二
- 五 防空警備の強化 五三
- 六 終戦後の消防団 五五
- 七 災害時の通信体制 五七
- 八 小田町防災行政無線 五九
- 九 町内における主な自然災害 六一
- (一) 明治一九年における風水害 (二) 昭和一八年の大雨洪水 (三) 三八年豪雪 (四) 四二年豪雨災害

第四章 保健・衛生 五二

一 診療制度 五三

- (一) 公立診療所 (二) 民間診療施設
- 二 伝染病舎 五五
- (一) 避病舎

第四編 産業・経済

第一章 人口と集落 五三

- 三 国民健康保険 五五
- 四 地域簡易水道 五九
- (一) 簡易水道施設 (二) 飲料水供給施設
- 五 コミ焼却場 六〇
- 六 町営火葬場 六六
- 七 疾病および伝染病 六七
- (一) 概要 (二) 伝染病 (三) 疾病

- 一 維新前的人口 五三
- 二 明治以降の人口 五五
- 三 第二次世界大戦後の人口動態 五九
- 四 産業別人口 五九

第二章 農業 五九

第五章 福利・厚生 五九

- 一 国民年金制度 六一
- (一) 拠出制国民年金制度 (二) 無拠出制国民年金
- 二 社会福祉事業 六五
- (一) 沿革 (二) 生活保護 (三) 児童福祉 (四) 母子福祉 (五) 老人福祉 (六) 身体障害者福祉 (七) 地方改善事業

- 一 概要 五九
- (一) 藩政時代 (二) 明治維新以後 (三) 第二次世界大戦当時 (四) 終戦後の農政 (五) 新しい農政
- 二 農用地の開発 五九
- (一) 徳川時代～明治初期 (二) 明治後期～昭和初期 (三) 戦中～戦後

- 三 小田町農産物の推移 六〇
- (一) 史実から見た農業生産 (二) 昨目の変遷 (三) 農業政策の移り変わり

第三章 農業協同組合 六〇

- 一 沿革 六〇
 - (一)産業組合時代 (二)農業會時代 (三)農業協同組合時代 (四)町内農業協同組合の合併

第四章 畜産 六一

- 一 牛 六一
- (一)和牛 (二)乳牛
- 二 馬 六一
- 三 豚 六一
- 四 鶏 六一
- 五 その他の家畜 六一
 - (一)ヤギ (二)メンヨウ (三)ウサギ (四)アヒル (五)ミツバチ

第五章 林業 六二

- 一 小田町林業の概要 六二
 - (一)地域の環境 (二)林業の沿革 (三)山林所有の概況 (四)造林概況 (五)材の流通 (六)特殊林産

物

- 二 森林面積と蓄積 六二
 - (一)森林と土地利用状況 (二)森林蓄積と収穫表
- 三 林地の利用と所有形態の推移 六三
 - (一)概要 (二)経営面積の状況 (三)農林業者の方向 (四)公有林の概要 (五)優良杉品種展示林
- 四 小田町におけるマツクイムシの被害 六三

第六章 森林組合 六四

- 一 森林組合の生い立ち 六四
- 二 森林組合の歩み 六四
- 三 森林組合の現況 六五
 - (一)組合合併とその後の歩み (二)林業構造改善事業の概要
- 四 森林組合の事業と諸統計 六五
 - (一)林道 (二)造林 (三)金融 (四)燃料革命と椎茸生産

第七章 商工業 六六

- 一 商工業の生い立ち 六六

- 二 商工業の現況 六七
 - (一)商業集落の形成と商品生産の発展 (二)近代化の波―殖産興業から富国強兵への道 (三)経済復興から高度成長経済へ

- (一)商業・サービス業等の現況 (二)建設業・製造業などの現況 (三)ふるさと志向―商工業の課題

第九章 観光 六八

- 三 小田町商工会 六七
 - (一)商工会の沿革 (二)組織等の概要 (三)事業の概要 (四)財政
- 四 金融 六八
 - (一)銀行 (二)農協の信用事業

- 一 概況 六八
- 二 名勝 六八
 - (一)小田深山溪谷 (二)小田深山スキー場 (三)小田町ふるさとこみち (四)その他
- 三 名産物、名物 六八
 - (一)磨き丸太 (二)シイタケ (三)クリ (四)小田名物たらいうどん (五)アミノウオの土手焼 (六)深山鍋 (七)山菜料理 (八)小田の銘菓「ゆずっ子」

第八章 交通運輸(通信運輸) 六九

- 一 道路交通運輸の概況 六九
- 二 道路の変遷 七〇
 - (一)美川小田線 (二)本川西谷線 (三)大規模林道の着工

- 四 観光の将来と問題点 六九

第五編 教育 七〇

- 三 交通運輸事業の移り変わり 七〇
- 四 郵便通信事業の歴史と現状 七〇

- 第一章 学校教育 七〇

一 寺子屋教育 101

二 明治以後の学校教育 102

(一) 参川地区 (二) 小田地区 (三) 田渡地区 (四) 実業補習学校 (五) 青年訓練所 (六) 青年学校

三 戦後の学校教育 103

(一) 戦後教育の動向 (二) 幼児教育 (三) 中学校教育 (四) 愛媛県立小田高等学校

第二章 社会教育 104

一 戦前の社会教育 104

(一) 戦時下の青年と婦人

二 戦後の社会教育 105

(一) 社会教育法の制定と公民館 (二) 社会教育団体とその活動

第三章 教育行政 106

一 戦前の地方教育行政 106

二 地方教育委員会 107

第六編 信仰 108

第一章 民間信仰 108

一 信仰の心と形 108

二 町内における共通の信仰 109

(一) 自然崇拜信仰 (二) 神、仏教の影響による信仰

第二章 神社・寺院 110

一 神社 110

二 寺院 111

(一) 寺院の起源 (二) 町内における寺院

三 教派神道、その他 112

第七編 民俗・文化 113

第一章 村落社会の構造 113

一 村のつきあい 101

(一) まわり養い (二) 入合地 (三) 道作り (四) 虫送

り (田) 雨乞い (山) 山焼き (家) 家おしん (屋) 根ふき (葬) 葬式 (も) もめごと (組) 寄り (組) 寄り
地区役員

二 氏 神 100

三 講 100

(一) 頼母子講 (二) その他の講

四 若連中と子ども組 100

(一) 子ども組 (二) 若者組 (三) よばい

五 同族関係 100

六 身分的呼称 101

第二章 衣食住の移り変わり 101

一 衣生活 101

(一) 衣服 (二) 履物

二 食生活 102

(一) 食物 (二) 炊事用具・食器

三 住生活 102

第五章 伝説と昔話 102

一 参川地区の伝説や昔話 102

(一) 八つ頭の怪獣 (二) 参川地区にのこる話

二 小田地区の伝説や昔話 103

(一) 登貴姫と八房の梅 (二) 山の神の火祭り

三 田渡の伝説と昔話 103

(一) 義宗と八幡様

第三章 労働と習わし 103

第六章 民謡と俗信 二〇三

- 一 労働歌 二〇三
- 二 祝歌ほか 二〇〇
- 三 わらべ歌 二〇六
- 四 ふるさとの歌 二〇六
- 五 俗 信 二〇三
- 六 まじない・迷信 二〇六
 (一)まじない (二)迷信

第七章 方言 二〇三

第八章 風俗儀礼(人の一生) 二〇六

- 一 産 育 二〇六
 (一)妊娠 (二)出産 (三)一人前
- 二 婚 姻 二〇三
 (一)結納 (二)結婚式
- 三 死 喪 二〇五

(一)葬儀 (二)喪 (三)死後の供養

第九章 芸能伝承 二一〇

- 一 村芝居 二一〇
- 二 浄瑠璃 二一三
- 三 中川万才 二一三
- 四 獅子舞 二一〇
 (一)はじめに (二)寺村獅子舞 (三)立石獅子舞
 (四)町村の獅子舞 (五)白杵の獅子舞
- 五 しゃんぎり・おねり 二一〇
 (一)白杵三島神社の「おねり」 (二)余儀利
- 六 盆おどり 二一四
- 七 子供の遊び 二一四
 (一)植物などでの遊び (二)動物などでの遊び
 (三)簡単なものを使つての遊び (四)道具を使わ
 ない遊び (五)わらべうた (六)子供の言いごと

第一〇章 文化財 二一五

- 一 県指定天然記念物 二一五

- 二 町指定文化財 二一六
- 三 その他の文化財 二一六
 (一)参川地区 (二)小田地区 (三)田渡地区

第八編 人 物

町村長・助役・収入役・

議会議員名簿

- (一)参川村 (二)小田町村 (三)石山村 (四)田渡村
- (五)小田町

小田町歴史年表

国土調査前番地および字名表